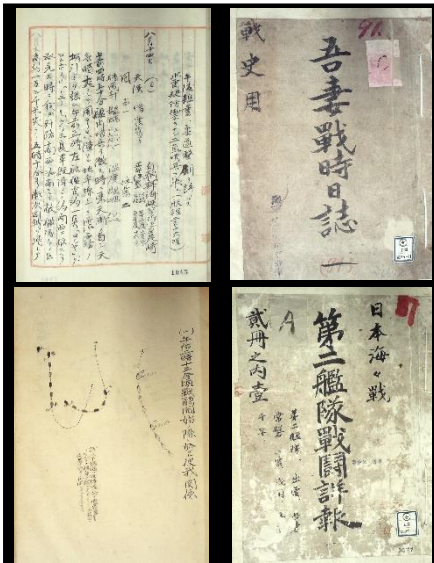


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{ふじい こういち} 藤井 較一 1858~1926 年 《
—岡山県出身の海軍大将—



吾妻戦時日記、第二艦隊戦闘詳報 (登録番号: 海軍省-日露-M37-91、7)
藤井較一大将は、明治 13 年に海軍兵学校(7 期)を卒業、主として艦隊勤務と参謀職を歴任しました。特に大佐昇進以降は、巡洋艦「吾妻」艦長及び第 2 艦隊参謀長として日露戦争に従軍します。「吾妻」艦長在任時には、蔚山沖海戦において、第 2 艦隊がウラジオ艦隊を撃破し、日本海から黄海までの制海権を獲得する中心的な役割を担います。また、第 2 艦隊参謀長在任時の明治 38 年 5 月 25 日には、所在不明なバルチック艦隊に対して、我が方が日本海を北上して津軽海峡で邀撃すべきという意見が多い中、藤井は少なくとも 3 日間は鎮海湾にとどまり、静観するよう提言します。連合艦隊司令長官東郷平八郎大将もこの献策を容れることとなり、この 2 日後、対馬沖で日本海海戦を迎えるのです。左掲の史料は、日露戦争時の「吾妻」の戦時日記と、日本海海戦時の第 2 艦隊の戦闘詳報です。



大正三年 公文備考 艦船一 卷十五 (登録番号: 公文備考-T3-15)
明治38年11月少将に昇進した藤井は、第1艦隊司令官、佐世保工廠長等を歴任し、42年12月中将に昇進、軍令部次長となります。当時は国防上、八八艦隊(戦艦、巡洋艦各8隻)が目標でしたが、予算上、造艦できませんでした。藤井はこれを憂い、超弩級戦艦より超弩級巡洋戦艦建造を優先すべきと主張して軍政当局を説得し、技術提供を条件に巡洋戦艦「金剛」を英国ビッカース社に発注させます。この技術は同型の巡洋戦艦国産化を促し、大正4年には、「金剛」、「比叡」、「霧島」、「榛名」の巡洋戦艦4隻を完備します。藤井は3年3月から佐世保鎮守府、第1艦隊、横須賀鎮守府各司令長官と親補職を歴任、5年12月大将、軍事参議官となり大正8年11月待命となります。左掲の史料は、「比叡」の製造を命じる訓令及び進水式の図です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線： 8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線： 03-3260-3011

FAX： 03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>